

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

Table with 2 columns: Item (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0194700472, 有限会社 ひまわり).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。
基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0194700472-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Item (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者ご家族あてに写真付きの手紙を送り近況を知らせている。
入居料を現金で支払っていただいているので、月に1回はお話をする機会や交流ができています。
入居者の方と買い物に出かけ、好きな物を選択していただいている。
毎週メニュー会議を行い、入居者の食べたいものをメニューに取り入れている。
日々の生活でできる事は自分でできるような場面づくりをしている(炊事・掃除・畑など)。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、帯広市の北方向にある音更町の高速道路付近に位置する閑静な住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。法人は隣町の士幌町で以前から認知症高齢者と障がい者のグループホームを運営しており、その経験を活かしている。当事業所の建物は、木の素材を活かした木造りで、ヒノキ風呂などホーム内の随所に拘りを感じられる。各フロアの中央に2箇所のリビングと食堂があり、広々とした共用空間であり、各フロアには、ゆっくり休める職員の休憩室や遠方からの家族の来訪のための宿泊用の部屋も用意するなど配慮している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item, Achievement (取組の成果), Item, Achievement (取組の成果). It contains 10 rows of evaluation data for various service items.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、玄関や事務所などに掲示し、共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会行事の清掃に参加したりご近所様からの草刈りのお手伝いや野菜の差し入れを頂いている。 コロナの影響もあり交流は減っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ以前は事業所での行事参加を通して理解して頂いたが、感染防止の制限もあり機会は少ない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推移会議において報告、話し合いを行い意見等頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当職員とは常にメールでの連絡体制が取れている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、正しく理解出来るように務めている。利用者様の安全のため玄関の施錠はしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃がされないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回研修を行っている。 虐待防止委員会を中心に、月1回のスタッフ会議での意見交換、日々のケアの中で間違いがないよう確認を行い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	期間中は学ぶ機会を設けることができおらず、理解している職員も少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接や契約時は、ホーム長または入居する階の管理者が同席し、時間をかけて説明し理解・納得に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見はいつも耳を傾け、個々に声かけしている。 ご家族様の来館や電話時に声かけし伺っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者と職員との面談で意見等を聞くなどしている。スタッフ会議や管理職会議で意見や提案する機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力認定評価を取り入れ、実績に応じて給与に反映されるなど、各自やりがいを持てるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加を促したり、実際の現場で説明・トレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	交流する機会がなく、行えていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、情報を共有し良く話を聞き、要望に答えられるように努力している。記録に残し情報共有することで安心出来る関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が話しやすい関係作りに努めている。事前面接や入居前アセスメントを行い、それぞれに合ったサービスを提供出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人によって必要性が違うので良く話し合い、プランを立てている。今までの生活スタイルや出来る事、趣味等を活かせるような支援に努めている。ご家族様の要望もプランに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者様が出来る事を一緒にいき、趣味や行事の参加を通して暮らしを共にし関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染防止の制限があるが面会やご家族との外出には対応している。毎月のお手紙や来館時、必要時には電話での相談をするなど、ともに支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外でも馴染みの方も面会していた。希望があれば電話での対応も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同志の関係を大切に支援している。レクリエーションや会話で橋渡しをしたり、食席や外出時のメンバー決定時に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も差し入れや連絡をいただけることもあり、関係を大切にしている。お盆には亡くなった方のお墓参りをさせていただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の話を聞き希望に添える様努めている。職員間で記録し情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時、ご本人やご家族様、入居前の施設等から詳しい情報を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況や心身状態を把握し記録に残して情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様に希望を聞き、ご本人に添ったケアプランになるよう職員間で話し合いをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を基に介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ会議で話し合っている。 その時々状況や要望に応じた支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はボランティアを利用していたが、感染対策のため今は難しい状態である。訪問歯科、訪問理美容の利用の他、パンの移動販売などを活用し楽しみを持っていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週間に一度の内科医の往診がある。他科の通院は家族の協力をお願いしているが、状況に応じてホームで対応している。 必要時には訪問歯科に来ていただいている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護師が出勤し利用者の健康状態を確認している。必要に応じて電話での対応も24時間体制で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は安心して入院生活が送れるようホームでの生活の様子を医療機関に情報提供し、看護師・医療相談員と連携し病状の把握に努めている。早期退院できるようご家族と医療機関との情報共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の意向についてご家族に書面にて確認を行っている。事業所でできる事を説明しご理解頂き支援している。別の場所に住処を移る場合はホームでの情報を提供している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにそって対応しているが、全て職員が実践出来るとは言い切れない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防の協力のもと避難訓練を行っている。地域との協力関係も気づけるように努めている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に沿ってその人らしさを大切に支援している。利用者の一人一人に対して気を配り、話し方や対応には十分配慮するように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや傾聴により本人の思いや希望を確認し叶えるための支援や自身で決定出来る事の働きかけに努めている。日常会話から希望をくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その人らしい生活ができるよう利用者様のペースに合わせた生活ができるよう声かけしたり状況を確認し、ご本人の思いに添えるように心がけている。希望に直ぐに応じる事ができずに待っていただくこともある。		
39		○自分らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日整容に気を付けている。2ヶ月に1度訪問理美容があり散髪、毛染め、パーマ、顔そり等希望の理美容を受けている。化粧品の準備や下着類を店頭で選んでいただき購入するなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望のメニューの聞き取りを行い、1週間分のメニューを決めている。調理や盛り付け、後片付けを利用者様と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週に1回のメニュー会議でバランスを考えたメニューを作成し個人に応じた食事量、水分量を摂取して頂き記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の口腔状態・能力に応じて、口腔ケア・義歯洗浄の声かけ・介助を毎日行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できるだけ排泄動作の自立ができるように骨盤底筋運動も取り入れている。排泄状況を記録に残し、パットの大きさや交換のタイミングなど、個々に合わせた誘導のタイミングを考え支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操や行進など運動をしている。排便状況の確認を行い、必要な水分量が摂れるよう記録に残し必要時には声かけや介助、水分の形態の工夫をしている。ヨーグルト、オリゴ糖、オリーブオイルなどを取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回以上、入浴できるように支援している。個々の希望に合わせた曜日や時間帯に入浴できているとは限らないが不満は聞かれない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて自室やソファでの休息をとって頂いている。寝具のダニ対策を年に2回行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認を行ない、薬の変更時には確認と体調変化に注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできる事をやりがいを持って行えるよう支援をしている。気分転換のため、買い物やドライブ等外出もできる時に行っている。掃除、食事の準備、洗濯たたみ等個々の力に合わせた作業を楽しみながら行っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩・喫茶店・温泉、お花見や紅葉狩りなど季節に応じて可能な時に職員と一緒に出かけている。遠方へは事前に計画を組まないと難しい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常に必要なものは預り金から購入しているが、希望する利用者様にはご家族同意のもと、自己管理しているお財布もある。買い物同時や月に1回のパンの移動販売で自分で選ぶ・支払うことを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて対応している。フェイス電話の活用も取り入れている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアには絵画を飾り、季節に合わせた装飾に努めている。外出時や行事、日常の写真を掲示し楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽当たりの良い南側のリビングと中央に食席を兼ねたリビングがあり、個々に話をしたりTVを観たりして過ごしている。一人になりたい時は居室で過ごされたり、共用部で場所を移す、別ユニットで時間を過ごすこともできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人が以前から使用していた物やご本人・ご家族様の写真、使い慣れた物を持ち込めるように配慮している。居室担当者を中心に写真を飾ったり、家具の配置を考え工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩出来るよう、館内には手摺が取り付けられており、床はバリアフリーになっている。必要な箇所にはトイレのマークを貼って「わかりやすく」したり、捻り易い蛇口にして「自分でできる」ように工夫している。		